

未来へつながる港湾整備

東京湾の湾口部にあり、浦賀水道航路の速度規制の影響を受けにくい港湾となっています。東京湾内の他の港湾と比べ、リードタイムも短く、背後圏の道路ネットワークの整備も進み、将来に向けポテンシャルの高いものとなっています。

横須賀港の主要な公共ふ頭である新港ふ頭には、2021年7月に長距離フェリーが就航し、九州～首都圏で多くの貨物が取り扱われており、既存の自動車専用船の利用も含め、ふ頭の面積が不足している状況です。今後も、ドライバー不足や環境対応などフェリーをはじめとする船舶の利用が進むことが予想されます。

このような状況を解消し、横須賀港での貨物の取り扱いの増加させるため、令和6年(2024年)6月に横須賀港港湾計画を改訂し、新港ふ頭の隣接に新規の埋立とふ頭整備を位置づけ、事業を進めます。



※生成 AI 作成イメージ図

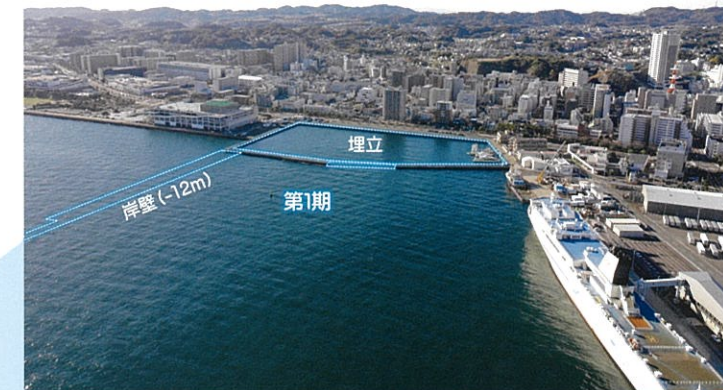


※整備予定図



概要

- 完成自動車などの外貨貨物を取り扱うための岸壁を整備します。
 - ・-12m岸壁1バース 延長290m
 - ・SOLAS 保安施設の整備
- フェリーやRORO船による内貨貨物のための岸壁を整備します。
 - ・-9m耐震岸壁1バース 延長260m
- ふ頭用地11ha(荷さばき施設用地及び保管施設用地)を整備します。
- 港湾緑地2haを整備します。
- 用地売却5haによる企業立地を進めます。



区分		工事スケジュール		
		第1期 概ね10年間程度	第2期 第1期の進捗を見ながら順次事業化	第3期
工事内容	第1期	湾内埋立		
	第1期	-12m岸壁		
	第2期	緑地護岸 -9m耐震強化岸壁		
第2期	埋立			
第3期	先端護岸埋立			
第3期	既存緑地用途変更			